

飛来種の地域差

浦ら（2008）は、越冬期のガンカモ類の個体数と生息場所の特性との関連を調べています。河川、湖沼及び内湾の3種の環境で個体数を比較すると、一部の鳥種で違いがありました。

すべての環境で多かった種類	マガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ
河川で多かった種類	オカヨシガモ
湖沼で多かった種類	ホシハジロ、キンクロハジロ
内湾で多かった種類	ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ

ここで、1回目の調査と5年後に実施された2回目の調査の結果を比較しているのですが、ある地域の個体数が全体的には変わっていないのに、河川では減少し、湖沼で増加しているものがありました。河川環境に何らかの変化があったものと著者らは考えています。このことから、生息環境の異なる地域では飛来種に違いが出るであろうと推測されます。

オオハクチョウの分布には給餌の有無との関連があったことが報告されています（浦ら）。カモ類の種類と個体数とについても、給餌のある湖沼では有意に多かったことが分かっています（樋口ら，1988）。

また、生活排水などの人間活動に起因する栄養塩の流入する湖沼では、富栄養化して動物プランクトンやそれらを食べる生物が増加することになります（花里，1989）。そうすると、潜水性のカモの増えることが知られています（羽田，1954）。

貝類を食べる	ホシハジロ（羽田，1962；Sekiya ら，2000）， キンクロハジロ，スズガモ（Yamamuro ら，1998；Oka ら，1999）
水生昆虫を食べる	カンムリカイツブリ（羽田，1962）
小魚を食べる	ミコアイサ，カワアイサ（羽田，1962）
プランクトンを食べる	ハシビロガモ（羽田，1955；羽田1962）

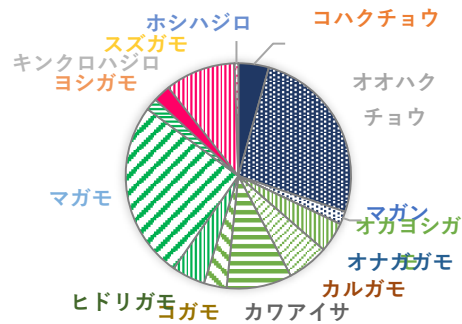
カモ類のエサになる生物（魚類，貝類，水生昆虫）について考えると、水の酸性度の低いことが好適な環境になると考えられています（平野，1994）。

ここでは、日本列島を大きく分けて、どれくらい飛来種に違いがあるのか飛来種の割合を地域ごとに比較してみました：北海道、東北北部（青森県）、東北日本海側（秋田県、山形県）、東北太平洋側（岩手県、宮城県、福島県）、北陸北（新潟）、北陸南（富山、石川、福井）、関東A（茨城、千葉、東京、神奈川）、関東B（群馬、栃木、埼玉、山梨）、中部（長野、岐阜）、東海（静岡、愛知、三重）、近畿（滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫）、山陰（鳥取、島根）、山陽（岡山、広島、山口）、四国（香川、愛媛、徳島、高知）、九州北（福岡、佐賀、長崎）、および九州南（大分、熊本、宮崎、鹿児島）の16地域。データは2017年1月に実施された環境省生物多様性センターの調査成績を基に作図したものです（平成28年度 第48回ガンカモ類の生息調査）。

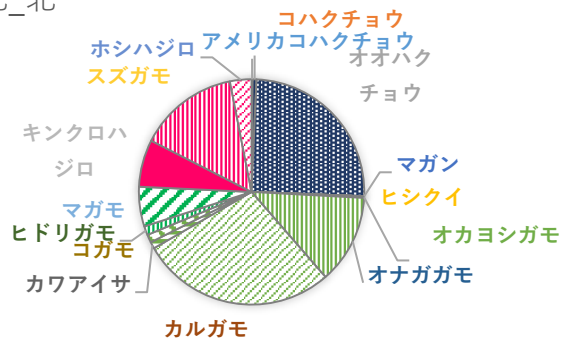
※図の緑色部分：水面採餌型（淡水ガモ）。主に植物質の餌を食べる。助走せずに垂直に飛び立つ。

ピンク部分：潜水採餌型（海ガモ）。水底の貝やその他動物質を食べる。水草や魚も食べる。

北海道

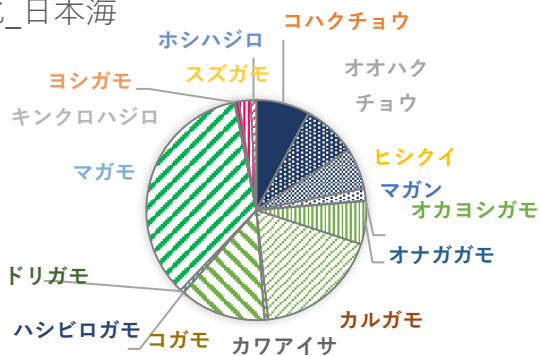


東北_北



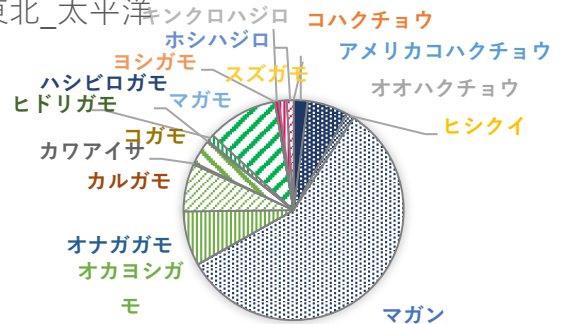
青森県

東北_日本海



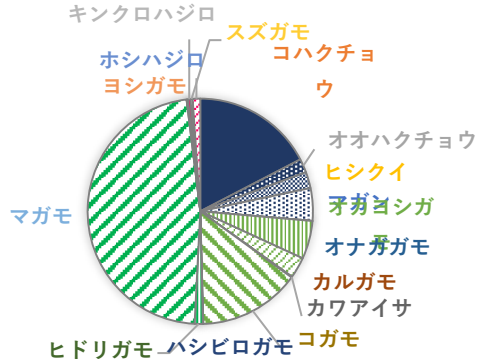
秋田県, 山形県

東北_太平洋



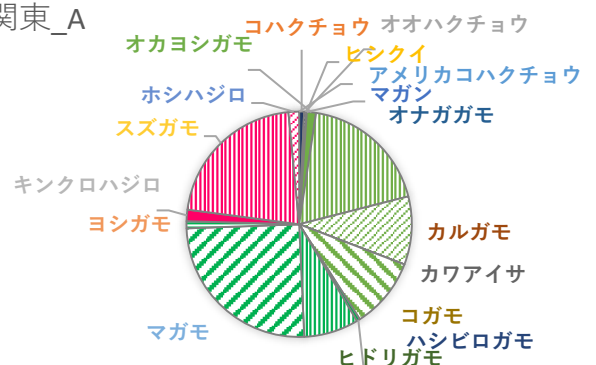
岩手県, 宮城県, 福島県

北陸_北



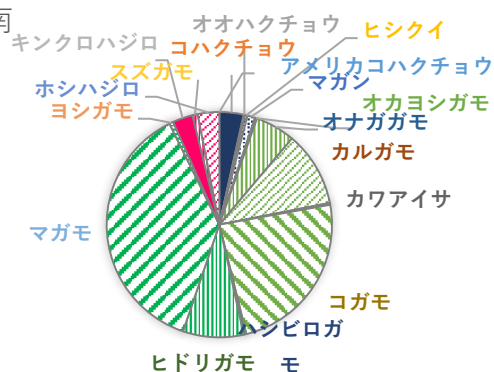
新潟県

関東_A



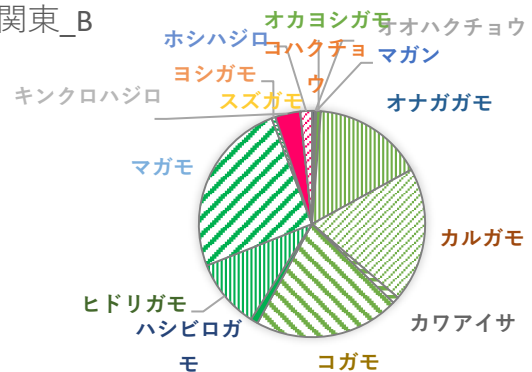
茨城, 千葉, 東京, 神奈川

北陸_南

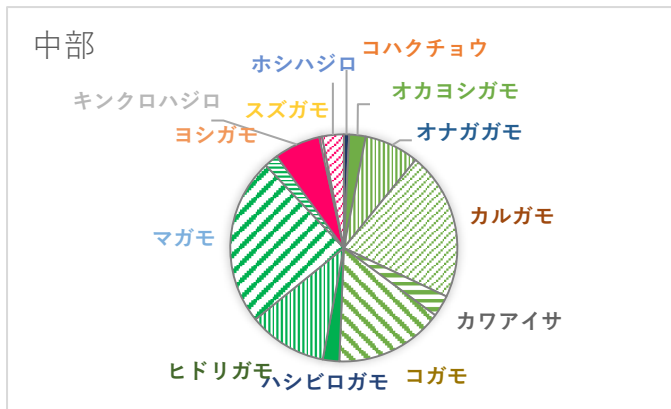


富山, 石川, 福井

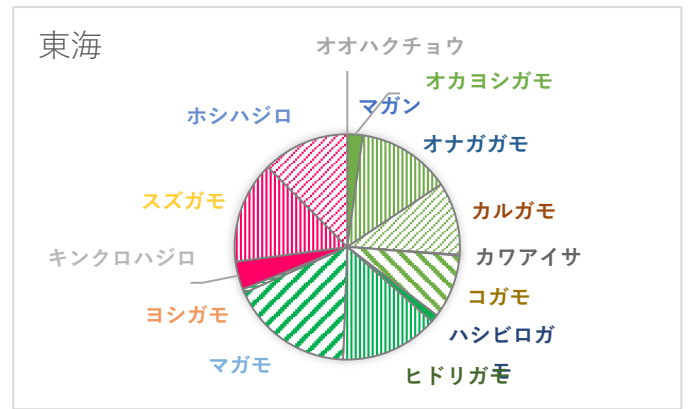
関東_B



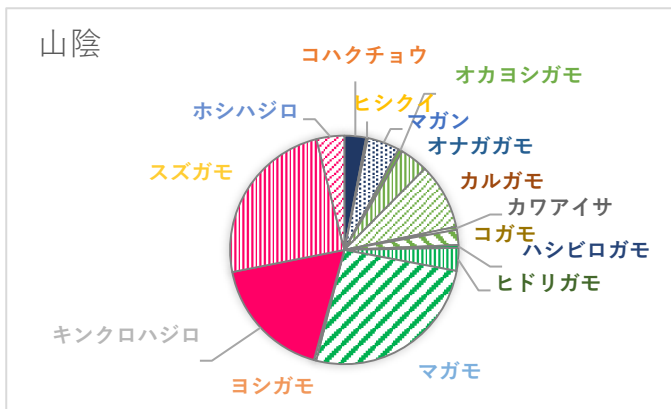
群馬, 栃木, 埼玉, 山梨



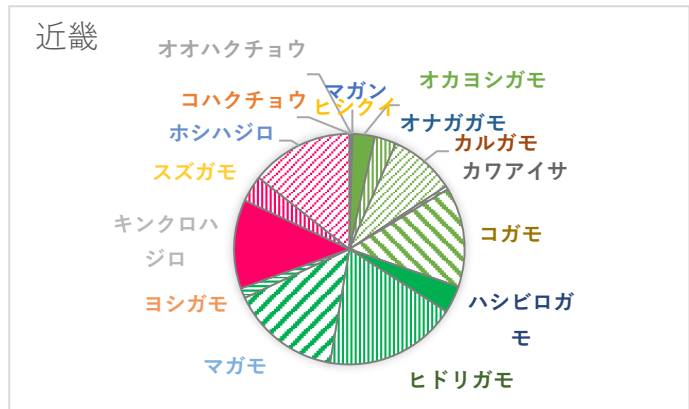
長野, 岐阜



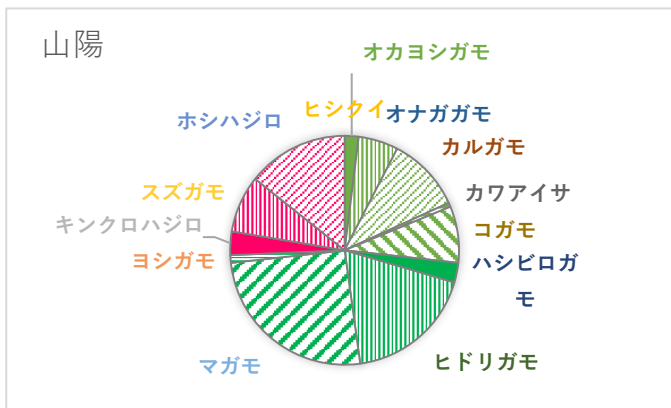
静岡, 愛知, 三重



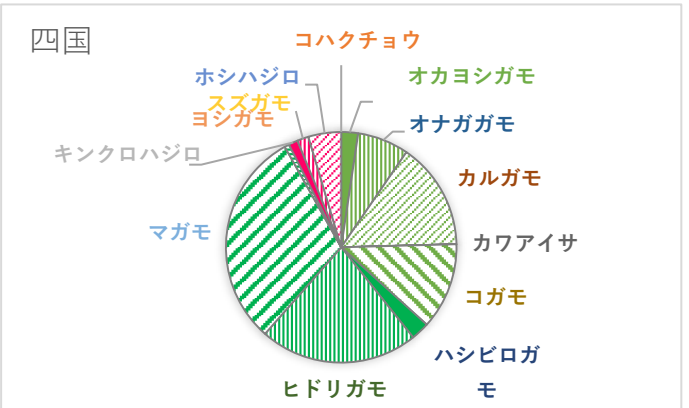
鳥取, 島根



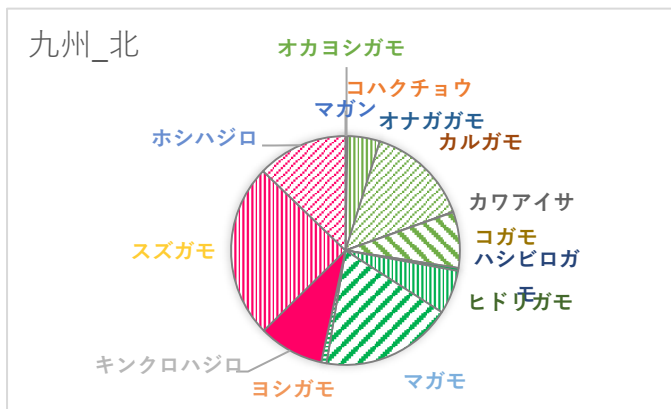
滋賀, 京都, 奈良, 和歌山, 大阪, 兵庫



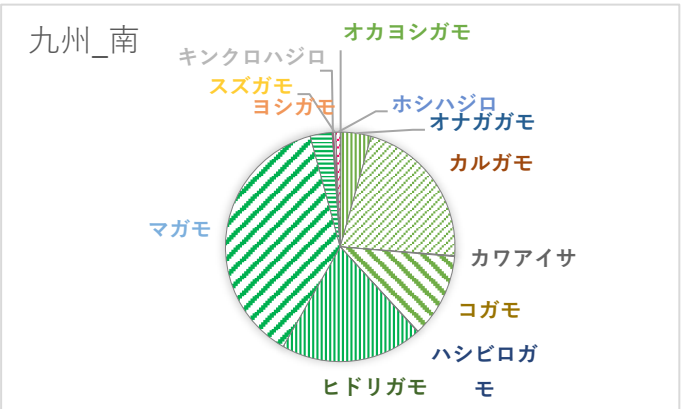
岡山, 広島, 山口



香川, 愛媛, 徳島, 高知



福岡, 佐賀, 長崎



大分, 熊本, 宮崎, 鹿児島